統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2020年） その3

－クロザピンの処方状況について－

○岡山県精神科医療センター　北川　航平

精神科臨床薬学（PCP）研究会

鈴木　貴子、高田　憲一、佐藤　康一、宇野　準二、天正　雅美、

加藤　剛、梅田　賢太、三輪　高市、野田　幸裕、吉尾　隆

倫理的配慮

本調査や解析では個人情報を慎重に取扱い、
十分に倫理的配慮を行った。

日本精神薬学会
利益相反（COI）開示
筆頭発表者名：北川　航平

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

目　的

精神科臨床薬学研究会（以下、PCP研究会）会員の所属する施設に入院中の統合失調症患者について処方調査を行い、「抗精神病薬」、「抗パーキンソン薬」、「抗不安・睡眠薬」、「気分安定薬」の投与量、投与剤数など、薬物療法の実態を把握することを目的とする。

本調査（その3）では、

- ▶ クロザピンの使用状況
- ▶ クロザピンとクロザピン以外の抗精神病薬・併用薬との比較

について報告する。

方　法

- 対象

  PCP研究会会員の所属する全国80施設に入院中の統合失調症患者10,106人

- 調査日

  2020年10月31日

- 調査項目

  年齢、性別、身長、体重、服薬指導（実施・未実施）の有無、抗精神病薬（含デポ剤）、抗パーキンソン薬、抗不安・睡眠薬、気分安定薬の投与剤数と投与量（＊ ブレクスピプラゾール、ブロナンセリンテープ、ルラシドンは解析から除外）

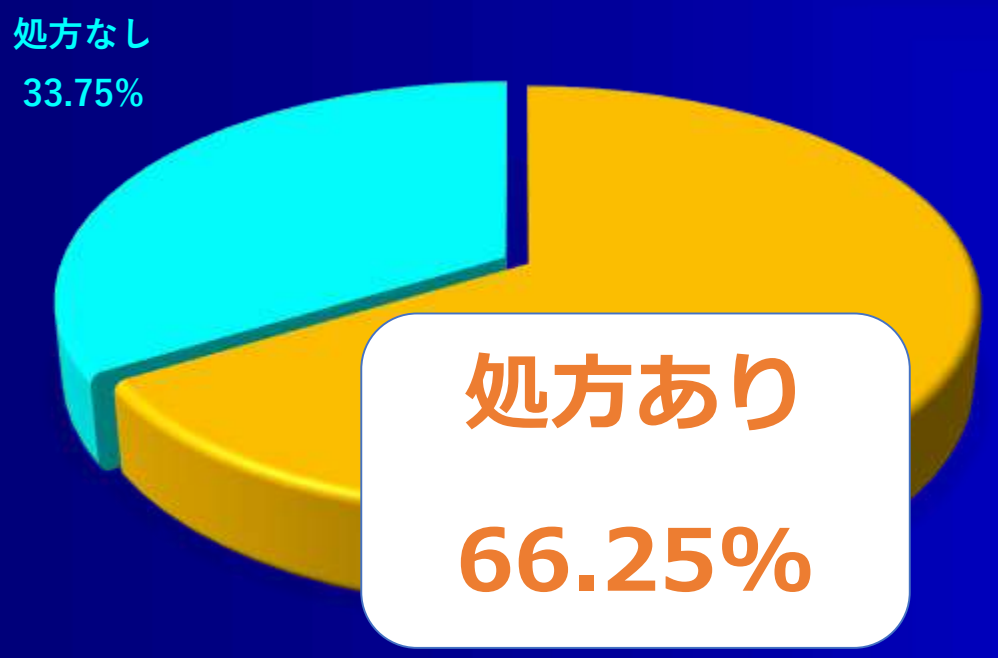
- 統計解析

  t検定で2群の平均値の比較を行った

調査対象プロフィール

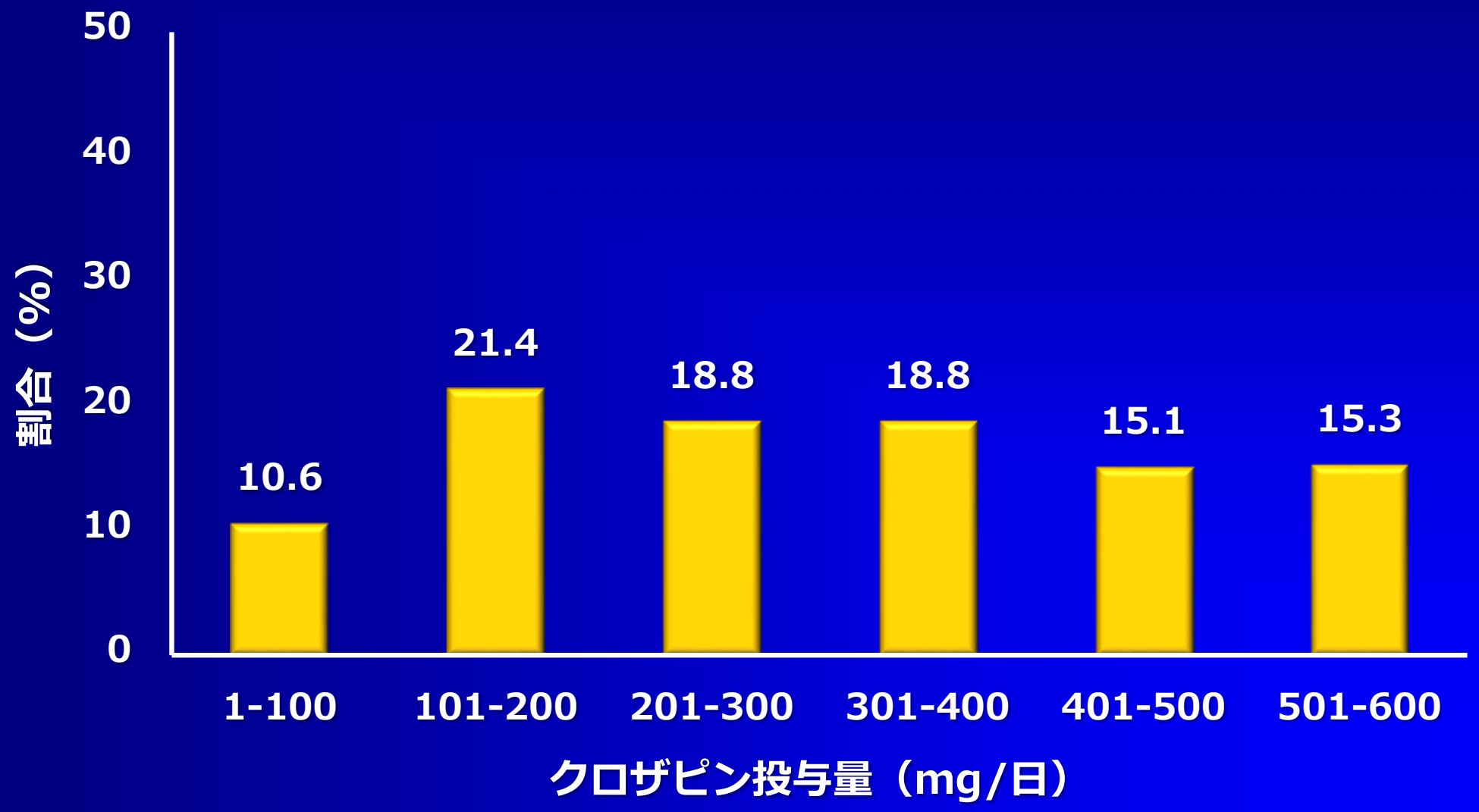
	クロザピン以外の抗精神病薬服用患者	クロザピン服用患者	クロザピン単剤服用患者
患者数（男/女）	8,835（4,343/4,492）	548（308/240）	489（273/216）
年　齢（min – max）	59.6（9 – 101）	45.7（16 - 78）	45.5（16 - 78）
罹病期間（month）	293.0	243.8	246.4
服薬指導実施率（実施/未実施）	28.4（1,913/4,819）	53.2（191/168）	52.9（171/152）

PCP全国処方調査（2020年）における クロザピン処方施設数

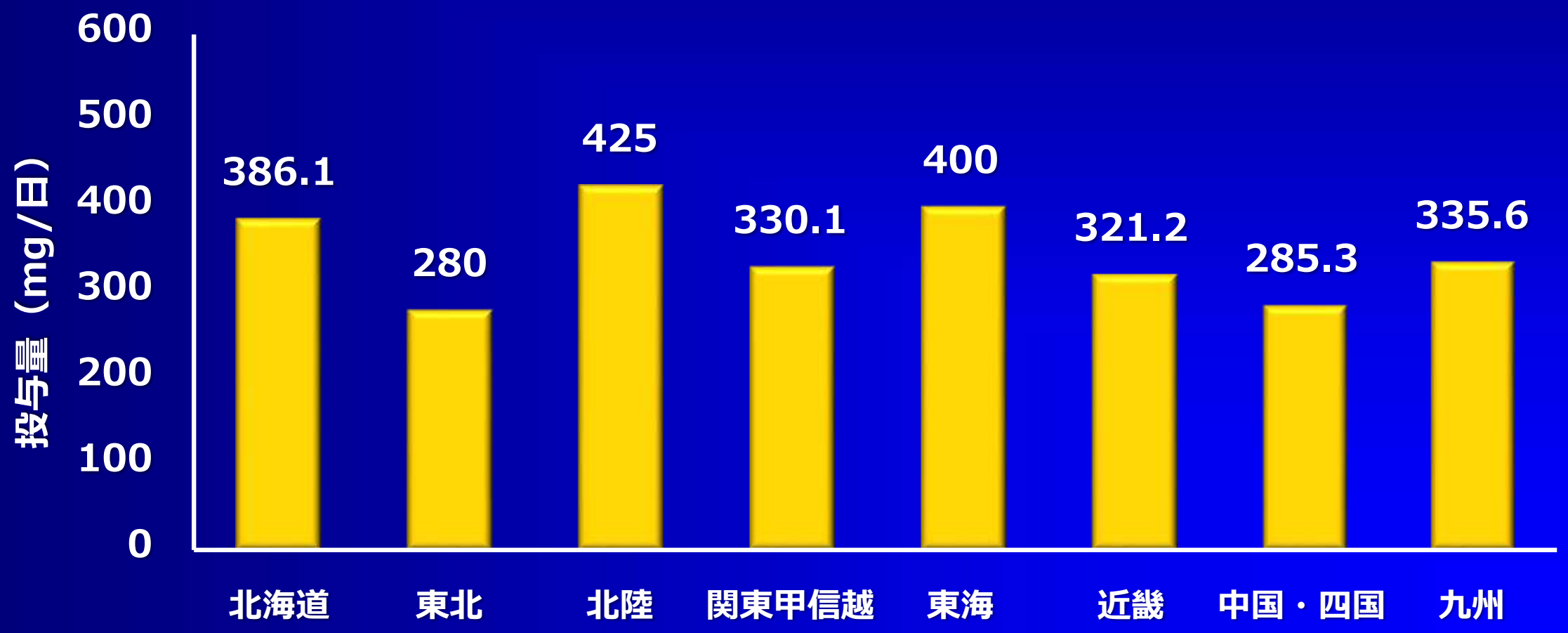


ブロック	施設数	
	参加	クロザピン処方あり
北海道	6	5
東北	5	3
北陸	1	1
関東甲信越	19	11
東海	7	6
近畿	17	9
中国・四国	13	8
九州	12	10
合計	80	53

PCP全国処方調査（2020年）参加施設における クロザピン投与量の分布

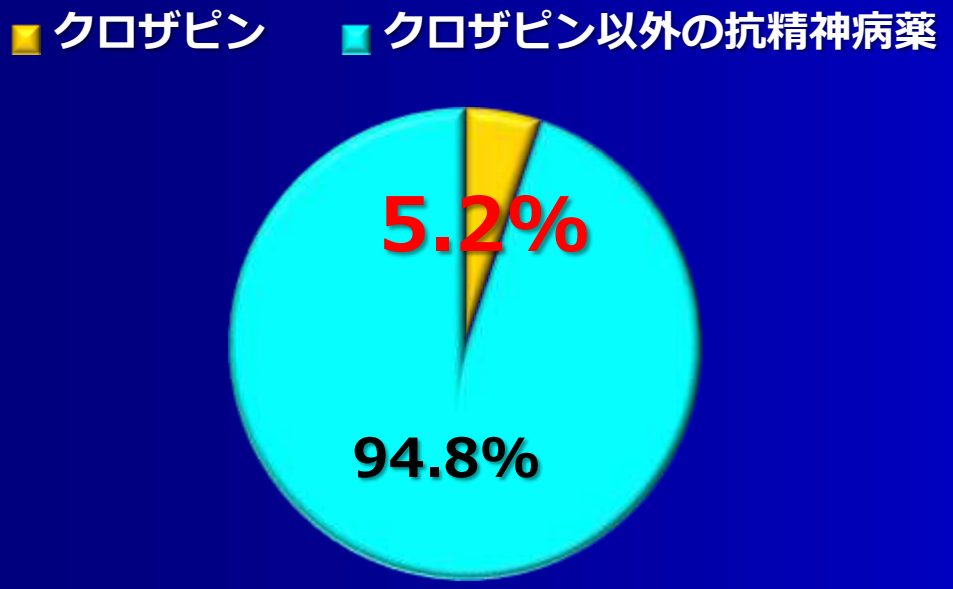


PCP全国処方調査（2020年）参加施設における ブロック毎のクロザピン平均投与量



全国クロザピン患者登録割合および PCP全国処方調査（2020年）参加施設における クロザピン処方割合

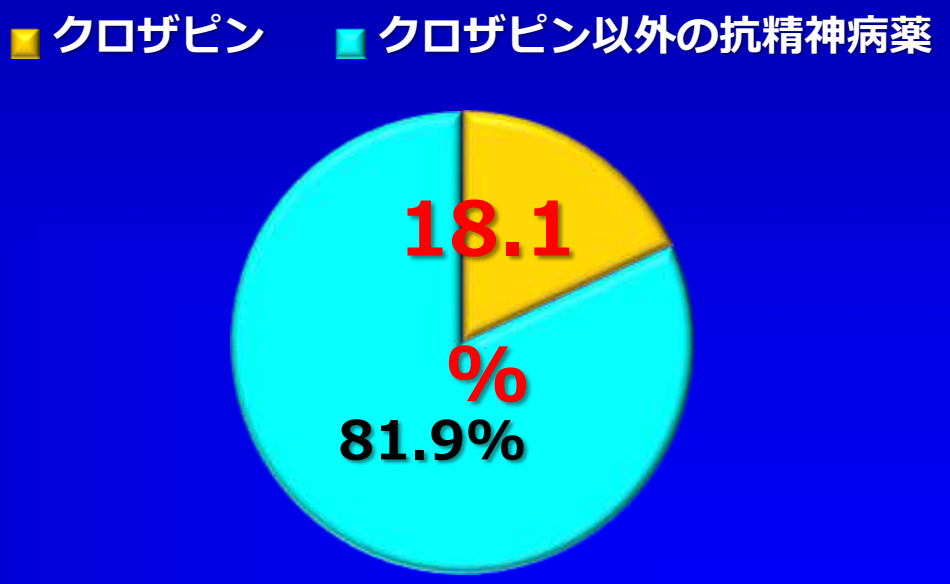
全国クロザピン登録患者



※ 全国クロザピン患者登録数：12,420人（2021年6月30日現在）

※ 治療抵抗性統合失調症患者は、国内で推定される統合失調症患者（793,000人：厚生労働省, 平成29年患者の概況データ）の3割にあたる237,900人として計算した。

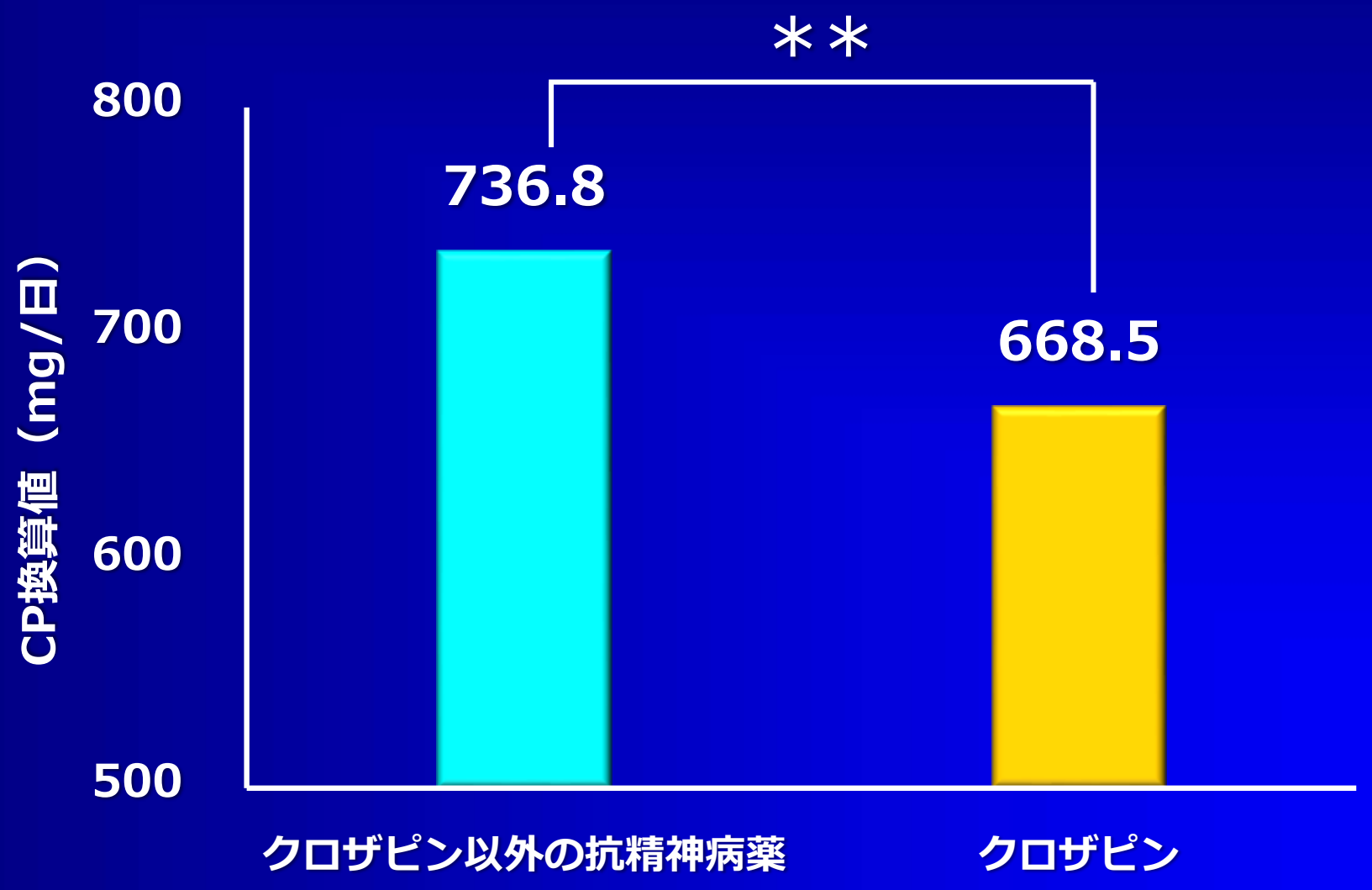
PCP研究会



※ クロザピン処方人数：548人（2020年10月30日時点）

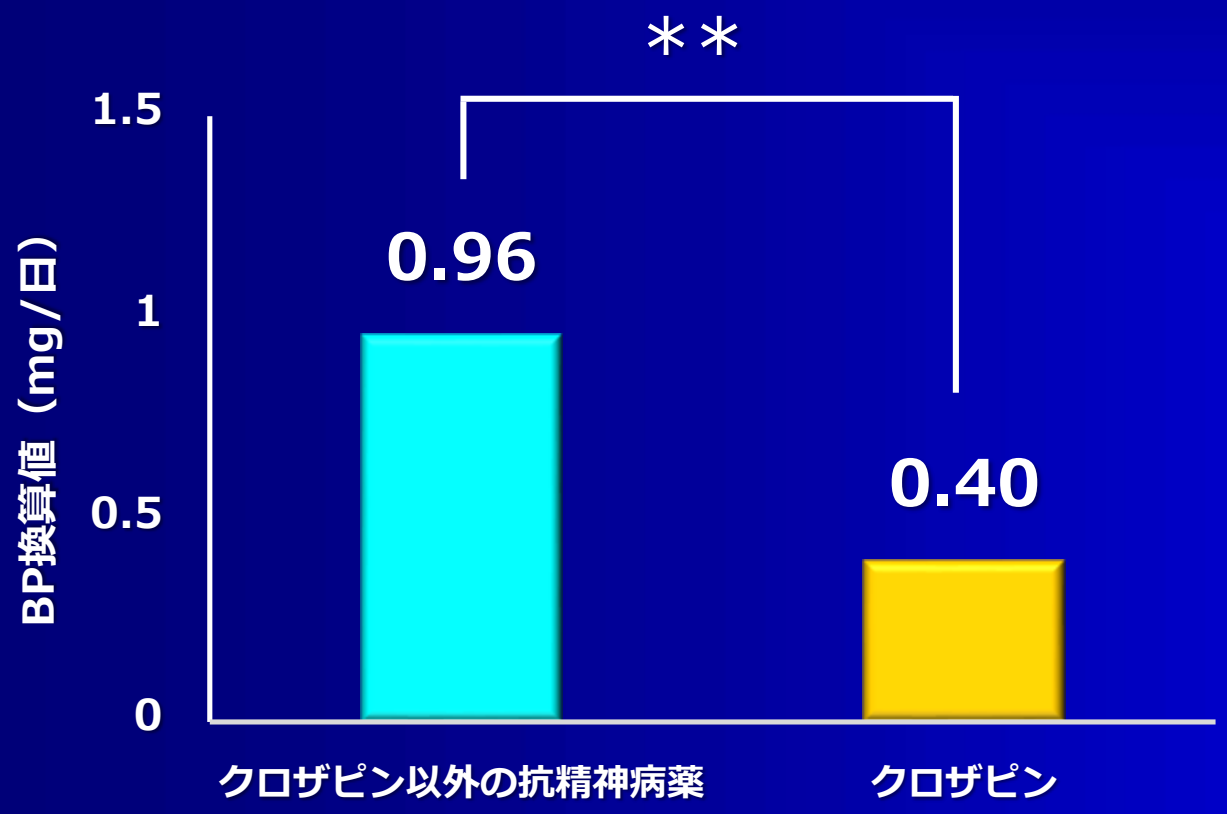
※ 治療抵抗性統合失調症患者は、調査対象とした統合失調症患者（10,106人）の3割にあたる3,032人として計算した。

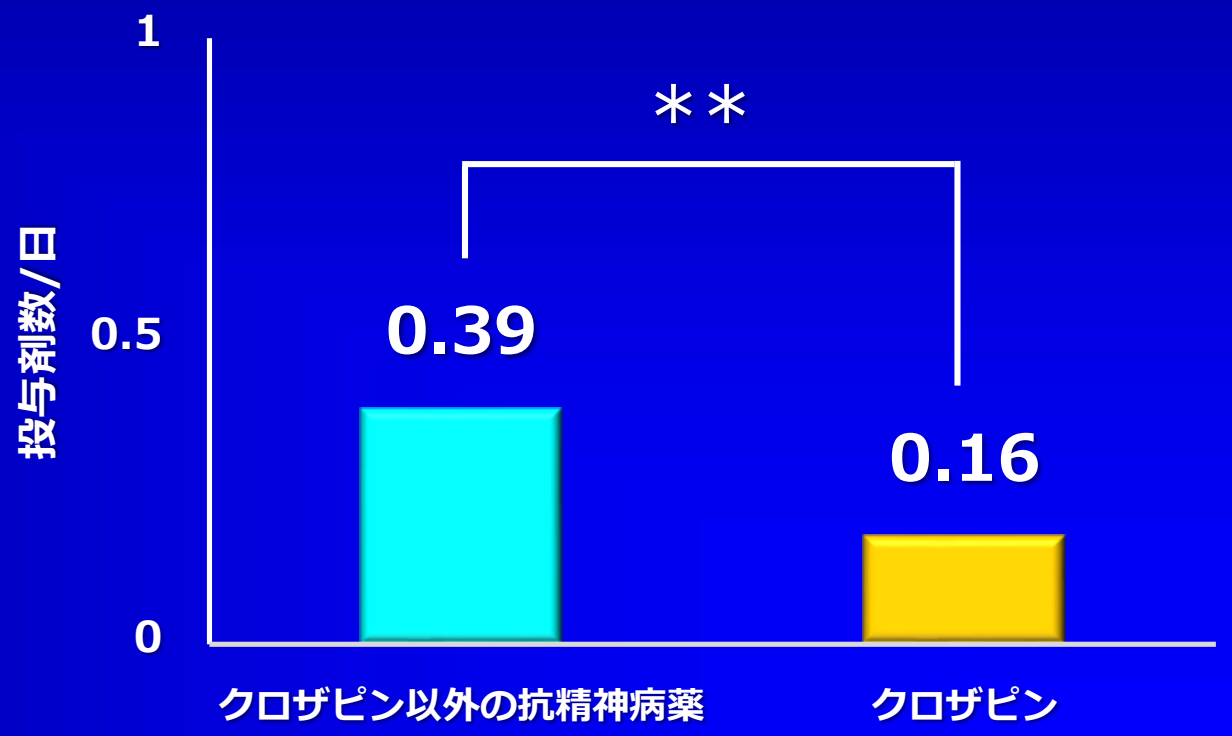
クロザピン単剤服用患者および
クロザピン以外の抗精神病薬服用患者のCP換算値



＊＊P<0.05

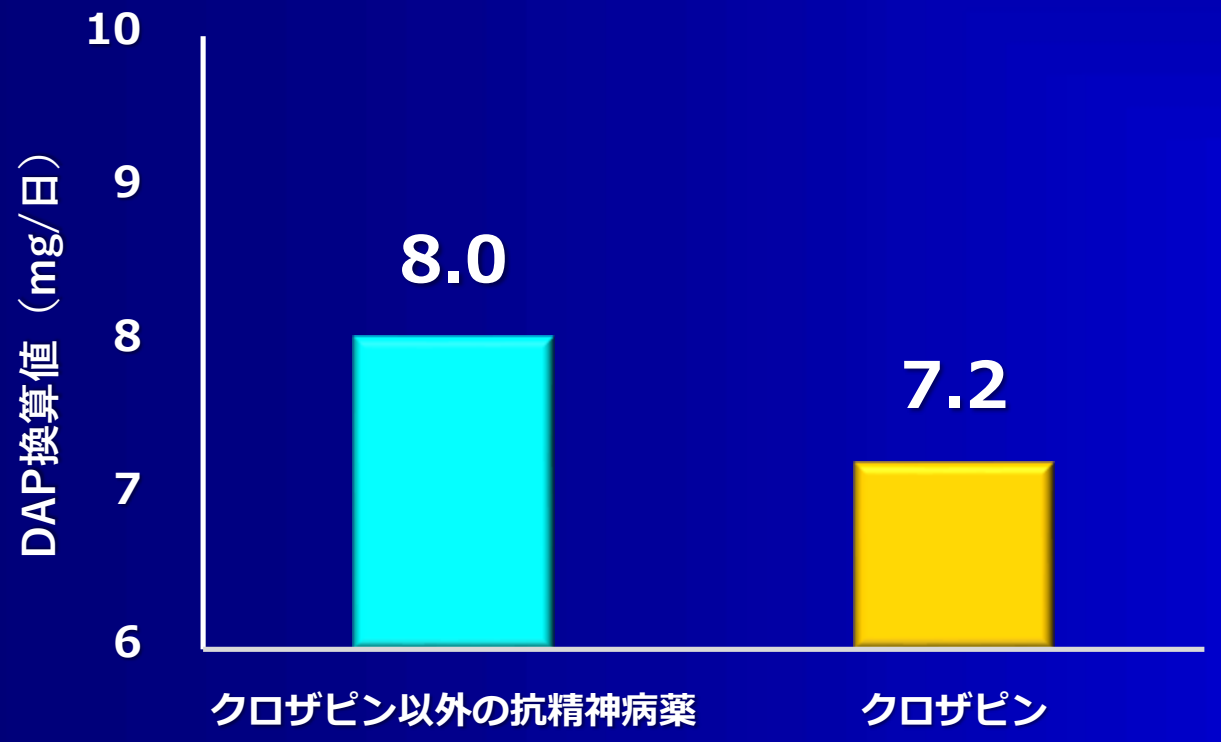
クロザピン単剤服用患者および クロザピン以外の抗精神病薬服用患者の BP換算値と抗パ薬投与剤数

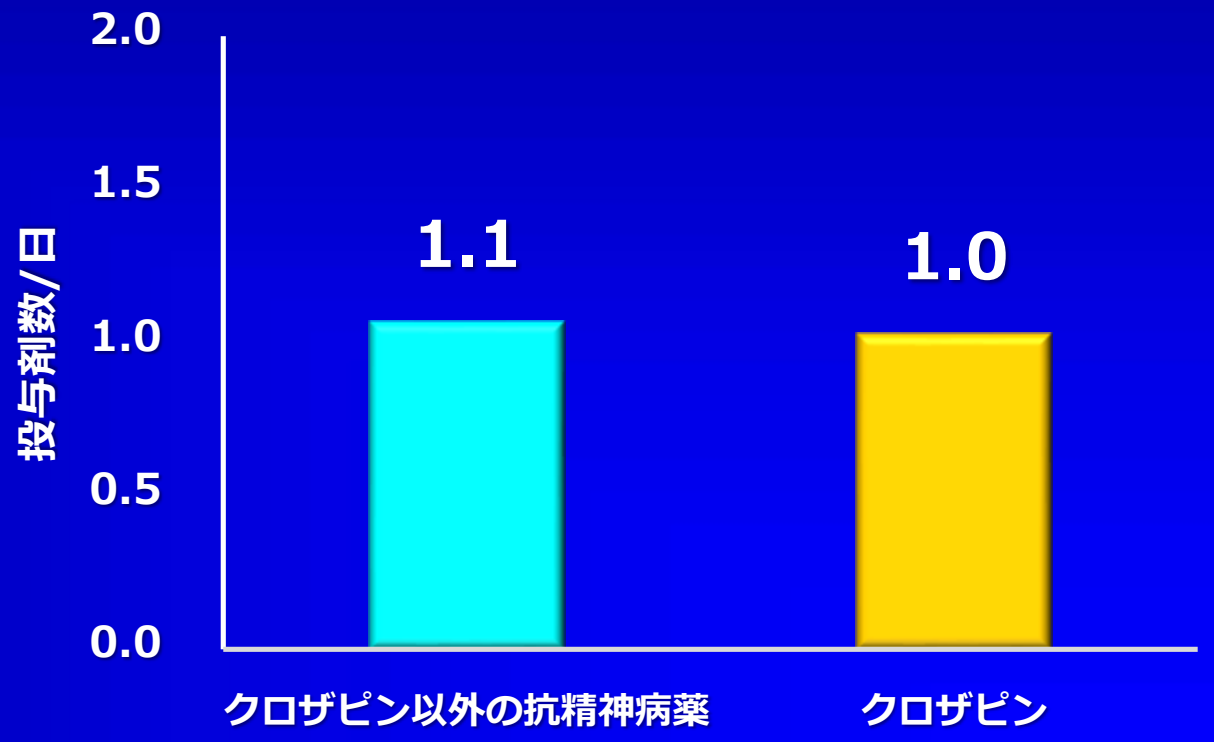




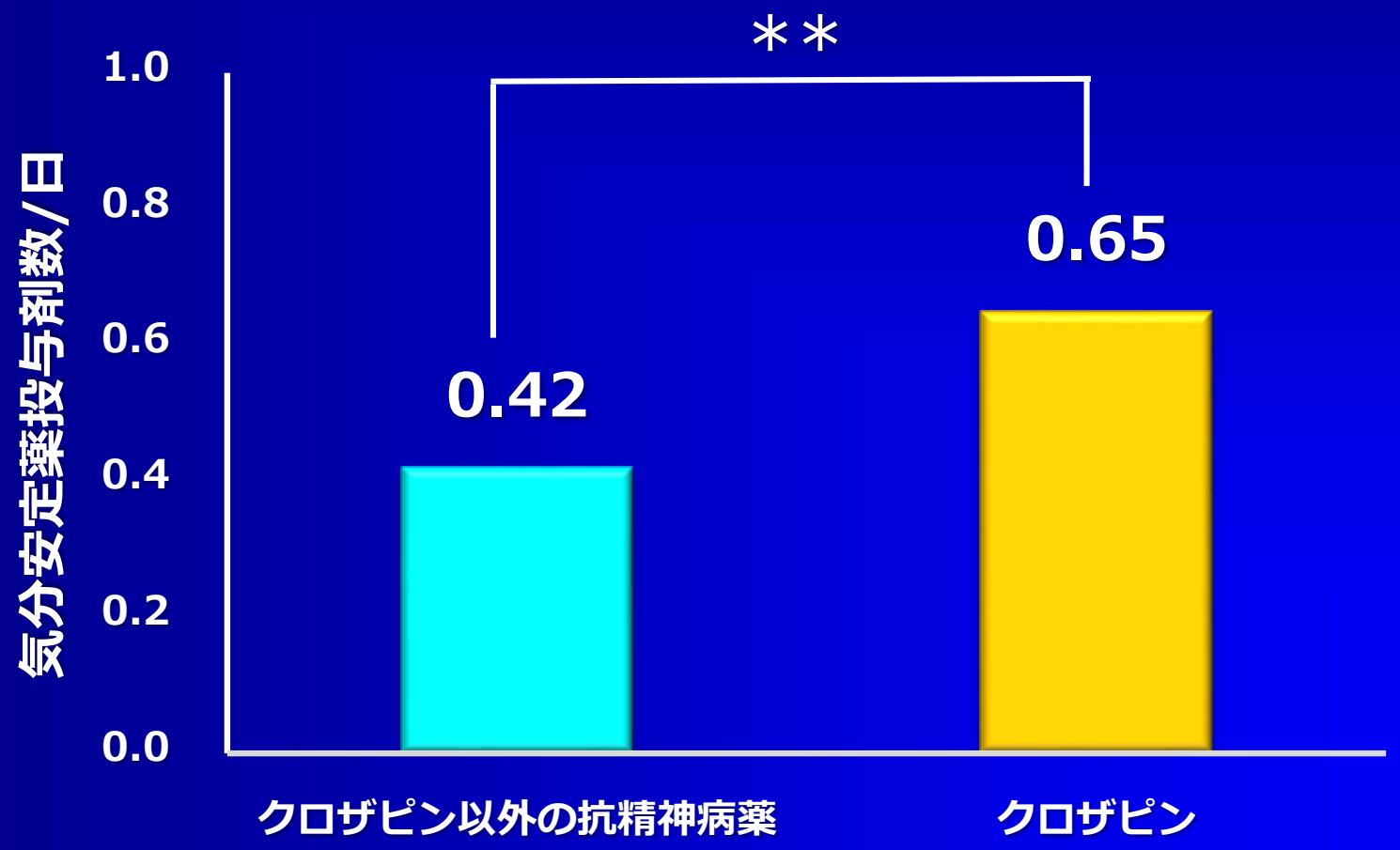
＊＊P<0.05

クロザピン単剤服用患者と
クロザピン以外の抗精神病薬服用患者の
DAP換算値と抗不安・睡眠薬投与剤数



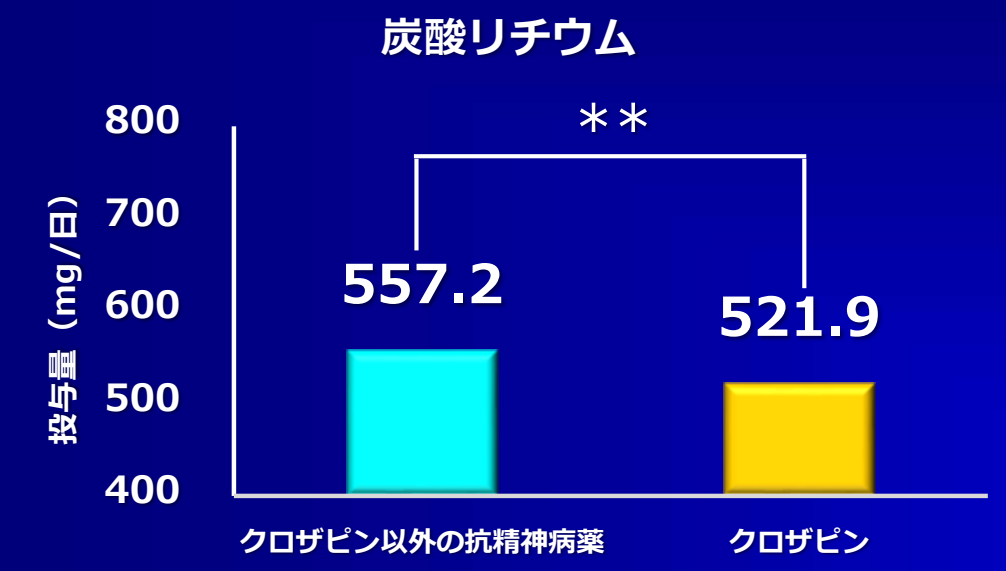


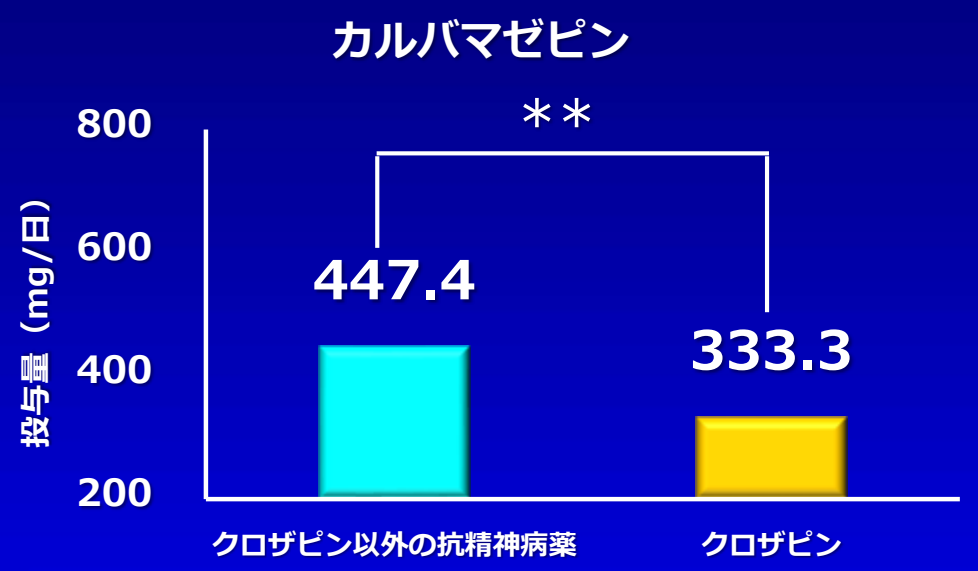
クロザピン単剤服用患者と
クロザピン以外の抗精神病薬服用患者の
気分安定薬投与剤数

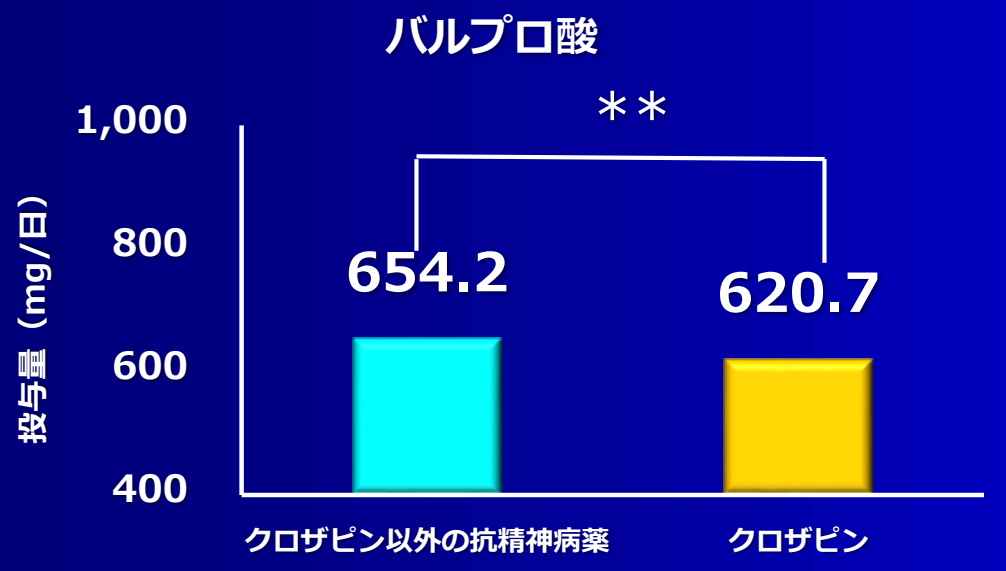


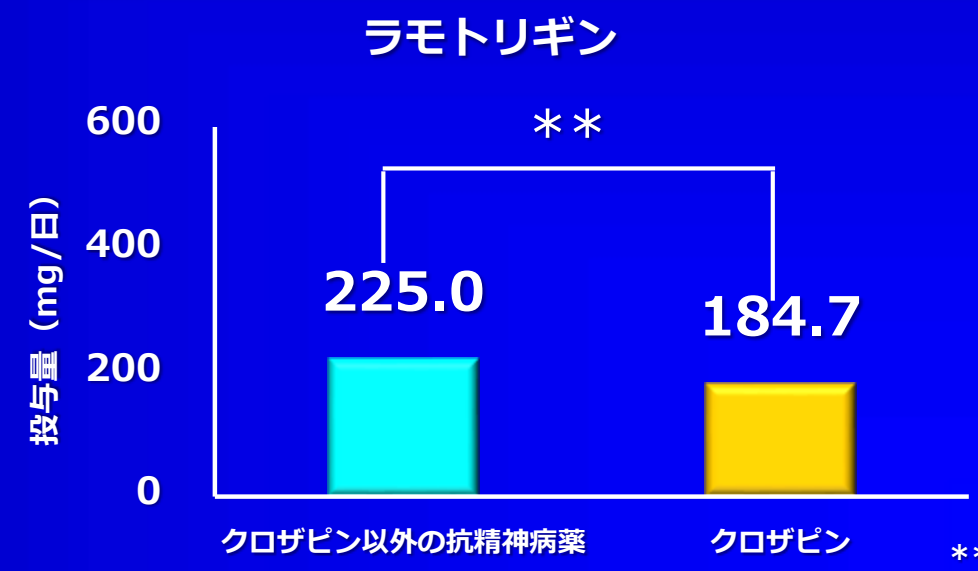
＊＊P<0.05

クロザピン単剤服用患者とクロザピン以外の抗精神病薬服用患者の気分安定薬の投与量









**P<0.05

まとめ

- 処方調査参加施設の66%でクロザピンが処方されていた。
- 推定される治療抵抗性統合失調症患者の内、クロザピン処方割合は18.1%だった。
- クロザピン服用患者に対する服薬指導実施率は54.9%だった。

CP換算値	CLZ単剤服用患者	<	CLZ以外の抗精神病薬服用患者
PB換算値	CLZ単剤服用患者	<	CLZ以外の抗精神病薬服用患者
抗パ薬の投与剤数	CLZ単剤服用患者	<	CLZ以外の抗精神病薬服用患者
DAP換算値	CLZ単剤服用患者	有意差なし	CLZ以外の抗精神病薬服用患者
抗不安・睡眠薬の投与剤数	CLZ単剤服用患者	有意差なし	CLZ以外の抗精神病薬服用患者
気分安定薬の投与量（4剤）	CLZ単剤服用患者	<	CLZ以外の抗精神病薬服用患者
気分安定薬の投与剤数	CLZ単剤服用患者	>	CLZ以外の抗精神病薬服用患者

考　察

海外の研究でも明らかにされているように、日本人を対象にした本調査においても、クロザピンを単剤で服用する患者は、クロザピン以外の抗精神病薬を服用する患者と比較して、CP換算値のみならず、BP換算値、抗パ薬の投与剤数が有意に少なかった。この結果は、クロザピンが多剤併用・大量処方の適正化に寄与することを示唆するものである。一方で、気分安定薬の投与量も有意に少ないながらも、逆に投与剤数は多くなっていた理由については明らかではないが、クロザピン特有の副作用対策による併用投与かもしれない。

今後、わが国においてクロザピン治療を促進するためにも、薬剤師のさらなる治療への関与と、クロザピンのリスクの高い副作用に対するマネジメントは非常に重要な役割である。